

①報道写真 (写真・記事貼付。枠内に入りきらない場合は折って貼る)



イスラエル軍に空爆され、倒壊した集合住宅。パレスチナ自治区ガザ地区ガザ市で16日午後1時3分

検問所封鎖／爆音1時間に1回

地鳴りのような音が夜の闇に響く。鼓膜を震わせるドーンという衝撃音を耳にするたび、頭上に岩石が落ちたような錯覚に陥る。私が取材を続けているのはパレスチナ自治区ガザ地区ガザ市。ここを実効支配するイスラム組織ハマスの幹部らに対し、イスラエル軍が連日の空爆を続けている。また始まったか。市民はその音を聞き、今日も眠れぬ夜が来ることを覚悟する。空爆下のガザで今、何が起きているのか。

イスラエルへの反発を強めるハマスは、エルサレムなどで衝突が起きるたびにロケット弾をイスラエル側に発射し、威嚇してきた。こうした状況の中、私はガザ地区の新型コロナウイルス対策などの取材で9日に現地入りした。

ガザ空爆また眠れぬ夜

入りした。

この時点で検問所は開いていた。だが10日夜にハマスのロケット弾攻撃に報復する形でイスラエル軍の本格的な空爆が始まり、検問所は封鎖されてしまった。

眠れぬ夜が始まった。夜間に空爆が激しくなると、耳をつんざく爆音が1時間に1回は響く。私が拠点を置くアパートの窓から外を見ても、夜間のため爆撃された場所が分からない。ただ、近距離なのは確かだった。

高度な軍事技術を誇るイスラエル軍は当初から「ハマスの拠点のみを狙って攻撃する」と主張していた。私はその言葉を信じ民間人に被害が出ないことを祈った。だがその見通しは甘かった。【ガザ市(パレスチナ自治区ガザ地区)三木幸治/写真も】

報道写真：選んだ写真・記事について、記事の概要や気付いたこと、感じたこと

記事のタイトルが状況や行為として写真が結果をあらわしていると思えます。周りの美しい空爆を落とさない場所と空爆が落とされた被害の差をあらわしていると思えました。だからケガや救助を見ている人がいるのだなと思えました。壊れたところを大きくとり上げて悲慘さをあらわしていると思えました。背景をぼやかせないのだから全体が強調されている。

年 組 番 氏名

②アート写真 (写真・記事貼付。枠内に入りきらない場合は折って貼る)



菅さん方で生まれたツバメ。親鳥が餌を運んでくるのを口を大きく開けて待つ。交野市で、滝川大貴撮影

交野市の風鈴職人、菅二彌さん(73)方で、ツバメのひなが6羽生まれた。並んで大きく口を開けて、親鳥が餌を運んでくるのを待ちわびている。

工房に小さな合唱

交野 ツバメ6羽生まれる

5月10日ごろ6羽のひながかえった。子どもたちに餌を与えようと、親鳥が巣と近くの木などを行き来している。例年夏ごろまで子育てが続くという。

【滝川大貴】

アート写真：選んだ写真・記事について、記事の概要や気付いたこと

親ツバメが早まっていること生活感がにじみでている。タイトルのツバメの合唱にポイント合わせて調強している。巣の部分が下にいくにつれてボヤけている。影をあまりつけず、せん糸田に写るようになっている。

◆報道写真とアート写真の違いはどのようなところだと考えるか

人間にとって利益があと情報か、それとも利益以外の情報かどうか。結果や原因、疑問があるかないか。他の人との感性や考えの違いが大きくなるか、小さくなるか、現状と日常、自分の知らない感性が感化されるもの。マイナスの感情が多いか、プラスの感情が多いか。



①報道写真 (写真・記事貼付。枠内に入りきらない場合は折って貼る)

26面 河内

**小5、6 府独自テスト**

府内の各校でも27日、全国学力・学習状況調査(全国学力テスト)が始まった。公立校の対象者は、小学6年が984校計7万1626人、中学3年が470校計6万7027人。一方、府教委は今年度から小学5、6年生に独自の統一テスト「すくすくウオッチ」も始め、児童らが問題に取り組んだ。

【鶴見泰寿、石川将来】

大阪府立南第一小(東区)ではこの日、6年生3クラスの82人が試験開始の合図とともに、学力テストに一齐に取り組んだ。新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が続いていることもあり、学校では試験前に教室の換気を徹底。児童は手洗いやうがいも済ませ、マスク姿で試験に臨んだ。

「すくすくウオッチ」は公立小5、6年生の計約14万人が対象。26日、6月8日、各校で実施日を決める。表を用いた読解問題など通常の学科試験で測れない力が試される内容で、府教委は継続して成績を分析することで学力向上につなげたいと考えた。

5年生は国語、算数、理科の3教科に加え、SDGs(持続可能な開発目標)など国際社会で関心を集める課題について、グラフや文章を読み解きながら自分の考えをまとめる

**教室の換気徹底、マスク姿で**



「すくすくウオッチ」の問題用紙を配布され、開始の合図を待つ児童ら—大阪狭山市西山台3の同市立南第一小で

「教科横断型問題」を出題。学習に対する意識などを問うアンケートもする。6年生は全国学力テストを受けるため、3教科を除いて後日、結果を踏まえて学習アドバイスなどを盛り込んだ個票を各自に配布し、得意分野を磨いたり、新たな取り組みにつなげたりしてもらう。教員の指導力向上にも役立てる。

大阪狭山市立南第一小では27日、5年生4人が回答方法などの説明を担任から受け、一齐に問題用紙に向かった。

報道写真：選んだ写真・記事について、記事の概要や気付いたこと・感じたこと

小学生が学習状況調査のテスト前の様子とのコロナの関係で27日27日取り組んでいるという2つの状況が写真が伝えられているのだと思った。

初「すくすくウオッチ」挑む

②アート写真 (写真・記事貼付。枠内に入りきらない場合は折って貼る)

1面 14版

京都・八瀬の瑠璃光院(京都市左京区)で、「青モミジ」が見ごろを迎えている。梅雨を迎えた古都で、木々に滴るしずくが色鮮やかな名庭を引き立てている。

比叡山麓の高野川流域にある同院は、大正から昭和時代にかけて改修が行われた数寄屋造り。窓が額縁の役割を果たし、室内からの景色が一枚の

**心洗われる緑 京都・瑠璃光院**

絵画のようになるよう設計されている。書院の2階では、窓一面に広がる緑が写経用の机や床に反射。静寂の中、幻想的な光景が広がっている—写真。消毒液の設置や参拝者の体温計測を徹底し、春の特別拝観を実施中。6月15日まで。

【山崎一輝、写真も】



アート写真：選んだ写真・記事について、記事の概要や気付いたこと・感じたこと

緑と黒の2色しかないので奥行きを感じた。木の葉の緑の木の葉が良い木をだしていると思った。そして、人の黒い影があることでよりよく見えると思った。

◆報道写真とアート写真との違いはどのようなところだと考えるか◆

報道写真は、今の状況がわかりやすいように奥の人をすくすくウオッチで写している。アート写真は、角度や反射を意識して絵にも見える写真だと感じた。



①報道写真(写真・記事貼付。枠内に入りきらない場合は折って貼る)

第1面  
14版

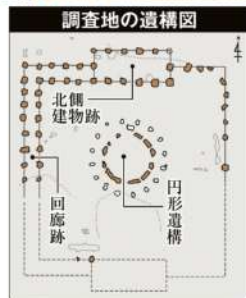
# 行基供養の多宝塔か 平城京跡西から円形遺構

出土した奈良時代の回廊跡などに囲まれた円形遺構  
＝3月、奈良市(本社ヘリから、恵守乾撮影)



奈良市の平城京跡西側の遺跡から回廊や塀に囲まれた円形遺構が、養老堂だった可能性がある。遺構が見つかったのは、行基やその弟子らが建立した寺院「四十九院」の一市が20日、発表した。円形の遺構は奈良時代には前例がなく、多宝塔と推定される。東大寺同市の大仏調査地中央からは、15基の

柱穴(柱の跡)が直径14・5メートルの円を描くように並び、石材の抜き取り穴も確認された。柱は本来16基あったとみられ、外側に柱、内側に建物の基礎を設けた円形の多宝塔のような建物があったと考えられる。周辺からは柱穴計35基が



出土しており、回廊や塀で囲まれた区画の大きさは南北64・6メートル、東西36・4メートル。北側には南北6メートル、東西14・7メートル規模の仏堂とみられる建物があったとみられている。同研究所は「今回の遺構は、過去に長閑院の候補地で見つかった建物跡と一体で整備されたと思われる」と指摘。出土した瓦から今回の遺構の創建時期は8世紀前半だとみられ、その年代に「まだ大規模に供養される人物として、749年に近々の菅原寺(善光寺)の

で死去したとされる行基が考えられるとしている。建物の配置は、回廊に囲まれた中に八角円堂が建つ法隆寺の夢殿(国宝、奈良時代)と似ているが、中心部に完全な円形の遺構が見つかったケースは初めて。調査は昨年10月～今年1月に実施。現場は宅地開発のため保存されず、一般公開は行わない。同研究所は「24面に「大規模遺構」

**行基**  
668～749年、奈良時代の僧。現在の堺市に生まれ、仏教を学ぶ。民間布教に努める一方、道路の修理や橋の整備など社会事業にも尽くした。聖武天皇の帰依を受け、東大寺の大仏建立では勅命を受けて民衆の努力を求め、その功績から僧の最高位である「大僧正(たいそうじょう)」に任じられた。死後は信仰の対象となり、「日本書紀(りょうぎき)」「平安時代」などに多くの説話が残された。

報道写真：選んだ写真・記事について、記事の概要や気付いたこと・感じたこと

ヘリからの上空から見える視点の写真で、そのすぐ下に示されている遺構図がとてもしっかりやすくなっている。この視点では普通ならば見ることはできないので、報道写真ならではの視点だと思った。記事に書かれている、柱穴や石材の抜き取り穴もしっかり確認できるので、当時の建物が想像できるすごい写真だ。

年 組 番 名前



②アート写真（写真・記事貼付。枠内に入りきらない場合は折って貼る）

島を歩く  
日本を見る



kobayashi momomi  
小林 希

「東洋のナポリ」に栄華の面影

保戸島ほとしま  
（大分県津久見市）



「はやし・のぞみ」昭和57年生まれ、東京都出身。元編集者。出版社を退社し、世界放浪の旅へ。帰国後に「恋する旅女、世界をゆく」29歳、会社を辞めて旅に出た。『冬舎文庫』で作家に転身。主に旅、島、猫をテーマにしている。これまで世界60カ国、日本の離島は100島をめぐった。

マグロの遠洋漁業最盛期、漁師は約1000人いたという。現在は激減したが、集落の景観が当時の隆盛を物語る

大分県の津久見港から船で向かった先は、豊後水道に浮かぶ周囲4kmの保戸島だ。たった25分の船旅だが、国境を越え、異国へ着いたかと錯覚する景観が港に広がる。

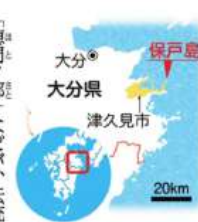
日本の有人離島では珍しい鉄筋コンクリートの3、4階建て住居群が、ぎゅっと寄り添うように立ち並び、赤や黄、白と多彩な色を発している。地中海沿岸の街並みに似ており、「東洋のナポリ」とも呼ばれる。島には平地がわずしかなく、港を中心とした西側の山斜面に集落がある。小道は非常に狭く、ほとんどが階段だ。

保戸島は明治以降、マグロの遠洋漁業基地として隆盛を極め、島の男性はほぼ漁師だった。津久見市観光協会によると、漁師たちは明治23年、長崎県の対馬で突きん棒によるカジキマグロ漁を始める。同37年には延縄漁業となり、日本有数の水揚げ量を誇った。

平成2年のピーク時は漁船167隻、年間の漁獲金額は約140億円に達した。日本近海からカリリン諸島などの外洋まで、人生の大半を海の上で過ごしてきた漁師たちにとって、たまたま帰る島の時間は特別であったと想像する。だからこそ、住居や生活にお金を

かけたのだろう。

当時、島の女性たちは上質な服を身にまとい、本土の人たちにとって花形の存在だったという。長期で漁に出る男性たちに代わって、島を守ってきたのも女性たちであった。テボと呼ばれる伝統籠を背負い、たくましく島を歩く女性の姿は今でも見られる。



アクセス  
大分・津久見港から船が運航。津久見市は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、31日まで観光やレジャー目的での乗船の自粛を求めている。

古老の口伝によると、保戸島に人が住み着いたのは、源平合戦で敗れた平家の落ち武者が島にたどり着いたのが始まりだという説がある。そのほか、つなぐれた歴史、文化、産業は「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」に選ばれている。

現在、人口は大きく減ってしまし、世帯数は約360。マグロ漁船は10隻のみで、後継者はほぼいない。津久見市や島おこし団体

「龍門ノ郷」などが、伝統行事である加茂神社の夏祭りに合わせてイベントを開催したり、土産物の商品開発をしたりして、島を支えている。

集落を縦横無尽に通る小道を登り、見晴らしのよい桜坂に出た。眼下には、栄華の時代を終えた穏やかな集落がひっそりと広がり、漁師たちが人生をかけて繰り出した紺碧の海がきらきらと揺れている。

|| 次回は6月4日掲載予定



集落内には、日本一狭い県道ともいわれる「612号」がある

アート写真：選んだ写真・記事について、記事の概要や気付いたこと・感じたこと

上の写真は広い視点で、下の写真は狭い視点で撮っていて、どちらもとてもきれいで、行ってみたいと思わせるような写真だ。上の写真は色彩が、下の写真は明暗が、絵画のようだ。

◆報道写真とアート写真との違いはどのようなところだと考えるか◆

どちらも土地・風景を撮っているが、視点と見せ方が違うと思う。報道写真は、我々が見ることのできない視点で、また、資料として必要な部分が確認できるように捉えられている。アート写真もありのままでありながらも色彩、明暗により美しく、より魅力的に捉えられていて、撮影者の感動や美意識が伝わってきて絵画的だ。



①報道写真(写真・記事貼付。枠内に入りきらない場合は折って貼る)



飼育員は休園中も動物たちと向き合ってきた。神戸どうぶつ王国提供

休園中、水槽の魚の様子を動画配信した。新江ノ島水族館提供

# 動物園・水族館「不要」じゃない

自分たちは「不要不急」の存在なのか——。新型コロナウイルスの感染拡大で、休園を余儀なくされた動物園や水族館はこの1年、施設の存在意義を自問する日々を過ごしてきた。客のいないなかで試行錯誤した結果、ある「確信」が得られたという。

●神戸どうぶつ王国  
スマートトラやマヌルネコなどがいる民間動物園「神戸どうぶつ王国」(神戸市中央区)は、3度目の緊急事態宣言が出たことで4月25日から臨時休園に追い込まれた。直前にアフリカの湿地を再現したエリアをオープンさせた。巨大なくちほしが特徴の鳥「ハシビロコウ」の繁殖をめざす取り組みだ。準備を進めてきた矢先の休園。佐藤哲也園長は「5月は売り上げがもっとも大きな1カ月。仕方ないとは言え、受け入れられない思いもある」と語る。休業要請が緩和されたことで5月14日から営業を再開したものの、通常営業にはほど遠い状況だ。コロナで休園するのは、昨春に続き2度目。同園のような民間施設は入場料と飲食や物販の売り上げが主な収入。昨春は飼育環境を維持するための費用や人件費を削減せず、借り入れや補助金などを使ってやりくりした。

一方で、同園が大切にしている

休業や減収 コロナ禍で試行錯誤

## 保護活動・癒やし… 募金応援で役割実感

た「SDGs(持続可能な開発目標)」の取り組みは、岐路に立たされた。国内の哺乳類の中で最も絶滅の恐れが高いとされる「ツシマヤマネコ」の生育環境を守るために餌場である田んぼを守る活動などだ。「動物園としてはないといけない」「責務」(佐藤さん)と考えていたが、こうした取り組みにお金をかける余裕がなくなった。窮余の策として、昨年10月からインターネットで資金を募るクラウドファンディング(CF)を始めた。3600万円余りが集まり、継続するめどがあった。「これからも続けて欲しい」といった応援の声が多く寄せられた。佐藤さんは「我々のやっている活動が必要だと認めてもらえた」と話す。

### ●新江ノ島水族館

新江ノ島水族館(神奈川県藤沢市)の飯塚一朗・ゼネラルマネージャーは、昨春に長期休園した3カ月間を「私たちの施設は『不要不急』の存在なのか、考える日々だった」と振り返る。いつ営業を再開できるのか。どうすれば水族館に來なくても客とつながることができるか、職員らは考えた。

その答えの一つが、人気のイルカショーや水槽の様子を動画配信サイト「YouTube」で配信する取り組みだった。約2カ月間で50本以上の動画も配信した。

昨年9月からは運営費などに充てる目的でCFを実施した。2カ月間に集まった額は約1200万円。「たくさん生き物に癒やされ、仕事も毎日頑張れる」。約700人から支援が寄せられた。

飯塚さんは「多くの人が応援してくれたのが何よりの励みになった」。そして、こう強調する。「少なくとも『不要』ではないとわかった」

新たなつながり方も見えた。CFの返礼として、飼育員の仕事の様子を見学できる少人数のツアーを企画したところ、瞬く間に定員に。飯塚さんは「これまでは『今日は何人来場した』と数値で考えていたが、新しい形の関係性を育みたい」と話す。

CF大手「READYFOR」で動物園などのプロジェクトを手がける鈴木千里さんは「直接来園できないなか、CFは自分たちの活動をあらためてファンに伝えたり、ファンとの将来につながる関係を作るきっかけになったりしている」としている。(有近隆史)

について、記事の概要や気付いたこと・感じたこと

休園を余儀なくされた動物園や水族館。命ある生き物たちを救うため、収入減でも飼育に必要な費用を削減することはない。そんな苦しい中で懸命に世話をしたり動画配信など新しい取り組みに頑張っている飼育員さんの写真に心打たれた。

名前



大阪・ミナミの道頓堀川をちょうちんで照らす「万灯祭」が、7月1日～8月31日に開かれる。コロナ禍で人通りが激減する中、街を盛り上げてほしいと、主催団体は協賛金を払ってちょうちんに文字を入れる「献灯」を募っている。

万灯祭は1999年に始まり、今年で22回目。地元商店街でつくる「いっとこミナミ実行委員会」が主催する。道頓堀川の両岸に深里橋から日本橋までの約800柱にわたり約1300個のちょうちんを並べる。

昨年は中止が検討されたが、人の集まるカウントダウンのイベントを見送り、ちょうちんを静かに点灯させて開催。また、初めてインターネットで献灯を募ったところ、約90個分が集まった。「がんばれミナミ!」「パワフル魂!! ミナミ」「がんばろう大阪」といったメッセージが、関西だけでなく、関東など遠方からも寄せられた。

実行委の北辻稔事務局長(69)によると、元々ちょうちんは地元の企業が広告として社名を入れることが多かった。ちょうちんの高さは60センチほど。メッセージを入れると社名は入らない。「それでも昨年はメッセージを入れて街全体を応援してくれた。人の心の温かみを感じる、

ミナミに希望ともして



初めて一般からの献灯を募集した昨年の万灯祭。「がんばれミナミ!」などのメッセージが並んだ。2020年7月1日、大阪市中央区

道頓堀「万灯祭」献灯募る

予想外のエールだった」と話す。

ミナミでは現在も多くの飲食店が休業しており、閑散としている。地元商店街では独自の感染防止対策のマニュアルを作り、点検を行うなど再開に向けた準備をしている。北辻さんは「ぜひ一緒に街に希望の明かりをともししてほしい」と呼びかけている。

ちょうちん1個につき協賛金は1万円で、メッセージは10文字まで入れられる。申し込みは、いっとこミナミのホームページ (<http://www.ittoko-minami.net/>) で6月10日まで、クラウドファンディングで5月31日まで受け付ける。問い合わせは事務局(06・6211・4542)。(新谷千布美)

アート写真：選んだ写真・記事について、記事の概要や気付いたこと・感じたこと

「がんばれ」「がんばろう」などの言葉が灯され、その向こう側には大阪を象徴するミナミの一角であるグリコサインを入れた構図になっていること、この写真一枚で、苦境も乗り越えていくという気持ちが伝わってくる。記事の中に「人の心の温かみを感じるエール」とあるが、その通りだと思った。色彩もきれいで、元気がもらえる写真だ。

◆報道写真とアート写真との違いはどのようなところだと考えるか◆

どちらも、コロナ禍を象徴する写真で、伝えたメッセージも共通していると思うが見せ方がそれぞれ違うと思った。報道写真の方は、それを携わる人の姿を写すことで、外部の人には普通なら見ることのできない中々の状況を知ることを可能にする。アート写真の方は、秋分は普通に見ることのできる風景の一角として素通りしそうな部分を構図を工夫して切り取って見せることでメッセージ性を強めている。







# 報道写真とアート写真～新聞の写真から学ぶ～

新聞名 産経新聞

発行年月日、曜日 令和3年(2021)5月20日 木曜日

## ①報道写真 (写真・記事貼付。枠内に入りきらない場合は折って貼る)

1面14版

### マスクにも

大阪発祥の染色技法「注染」を使った手ぬぐい作りが、夏の訪れを前に堺市中区の染色会社「ナカニ」で最盛期を迎えている。手作業で生み出された、さまざま柄が7層の高さからつるされ、乾燥室で風に揺られていた写真(彦野公太郎撮影)。新型コロナウイルス感染症拡大で、手ぬぐいが活躍する各地のお祭りが中止になったが、同社によると「手ぬぐいを使ったマスクやマスクカバーも人気。より身近に使ってもらえればありがたい」という。



報道写真：選んだ写真・記事について、記事の概要や気付いたこと・感じたこと

この報道写真を見て、色彩やかた手ぬぐいをも人を囲んで撮ることで、手ぬぐいの量が命か最盛期であることと、さまざま模様を泳めるとか命か、人より上から見下ろすように撮ることで、かたは「け長」のかか命か、とすかきかたはと思ひました。



②アート写真（写真・記事貼付。枠内に入りきらない場合は折って貼る）

15面11版



コクのあるソースがよく合う  
チキンソテー・クリームチーズソース

材料 〈4人分〉

- 鶏もも肉……………2枚
- クリームチーズ……………80g
- 白ワイン……………大さじ2

- 顆粒コンソメ、塩、コショウ、薄力小麦粉、黒コショウ（粗びき）、オリーブ油

- ①鶏もも肉は1枚ずつ6等分に切り、塩小さじ¼、コショウ少量をふる。薄く小麦粉をまぶしつける。
- ②クリームチーズは1㎝角に切る。
- ③フライパンにオリーブ油大さじ½を強めの中火で熱し、①の皮側を下にして焼く。裏返して弱めの中火にし、色よく焼き上げて取り出す。
- ④③のフライパンに白ワインを加えてアルコール分を飛ばし、②、水¼杯、顆粒（かりゅう）コンソメ小さじ½を

加えて木べらで混ぜながらとろみが出てくるまで加熱する。塩小さじ¼、黒コショウ小さじ1で味を調える。

⑤器に③を盛って④のソースをかけ、ルッコラなどを添える。

調理時間 25分  
1人分 273kcal

【一口メモ】

◇クリームチーズソースは鶏むね肉や豚肉のソテーなどにも合う。



●撮影/原ヒデトシ ●調理/中村千寿子  
●スタイリスト/倉内真理子 ●担当/田山奈留美

アート写真：選んだ写真・記事について、記事の概要や気付いたこと・感じたこと

このアート写真を見て、メインがチキンソテーとクリームチーズソースが全体に映れ、この「コクのあるソースがよく合う」という言葉が十分伝わりやすくて、いいと思います。チキンソテーやお皿を映した色や模様を映して、全体的に左上より映る感じが、この料理を美しく見せてくれると思います。

◆報道写真とアート写真との違いはどのようなところだと考えるか◆

報道写真はその出来事やその報道文をほくすように相手に伝わりやすく何を伝えるのかを明確にしていて、アート写真はどの角度から何を美しく撮るかということが重要だと思っています。これは「違い」とも思っています。



# 報道写真とアート写真～新聞の写真から学ぶ～

新聞名 毎日新聞 発行年月日、曜日 2021年5月9日(日)

## ①報道写真（写真・記事貼付。枠内に入りきらない場合は折って貼る）



### うつさないでも伝えたい

9日の「母の日」を前に、大阪府池田市の特別養護老人ホーム「オレンジ池田」では8日、新型コロナウイルス感染症防止用の防護服に身を包んだ家族が、入所する母親と面会し、感謝の思いを伝えた。写真。

防護服は東京ドームの屋根などのテント構造物を手

掛ける太陽工業（大阪市淀川区）が病院や福祉施設向けに開発。背中部分にあるファンで外気を取り込む一方、フィルター付き排気口も設け、着用者から外部への感染を防ぐ。施設では昨年6月から入所者との面会を中止していたが、面会者の防護服を4着用意して

1面14版

今年3月に再開した。

池田市の長谷川佳代さん（57）は昨年3月以来、1年2カ月ぶりに母の坂本睦子さん（96）との面会を果たし、カーネーションの鉢植えと洋服をプレゼントした。互いのぬくもりを確かめ合うように手を握り、表情を見ることができ、とても安心した」と喜んだ。

平野泰典施設長（38）は「何とか家族の方が面会で

きるよう工夫した」と話した。【山田尚弘、写真も】

報道写真：選んだ写真・記事について、記事の概要や気付いたこと・感じたこと

新型コロナウイルスが流行している中で、介護施設に入所している母親に娘が母の日としてカーネーションをプレゼントしているというだけでもお母さんへの写真が「好」と思いました。またその情報が「あるけど」、無敵な母の顔が入っている所が「良い」と思いました。



# 恋人の面影、歌姫に重ね



トレビの泉＝ローマで2019年8月23日、相良美成撮影

が描かれて、まさに観光小説。若き頃より文語体を愛し、即興詩人宣伝隊長を自認する安野光雅面伯に「副隊長」に任命され、私はアントニオの後を追って5回もイタリアを訪ねた。驚愕したのは、ちよんまげに刀を手挟んだ日本に生まれ、イタリアを見たこともない鵬外が、なぜイタリアの情景や風物をこれほど正確に訳せるのかということ

と。トレビの泉は「ここは古き殿ごころあり。（中略）河伯の像は、重き石衣を風に吹かせて、大なる滝を見下ろしたり」。現場そのままである。石段は石段、祭壇は祭壇、モデルは雛形娘、ハム屋は枯肉舗。大きなスカートをかきあげて踊る女を「袋帯を響く」といった工夫ある美しい文語体になっている。

これはPR誌『本』に連載され、安野さんの表紙画は鳥絵本即興詩人として、私の文章は「即興詩人」のイタリア」として刊行された。思い出深い旅である。闘技場コロッセウムやカラカラ浴場、地下礼拝堂カタクンベなど古代の遺跡も当時のまま、アントニオが通ったとされるイエズス会のリセもまだあった。一方、かつて観光地だったエジ

エリアの洞はすっかり草に埋もれていた。草むらからびよんと飛び出してきたワサギのようなおじいさんに案内してもらったり、安野さんが長年探して見つからなかったハルベリー二広場の銅版画を私が古書市で見つけたり、ボルゲーゼ公のバラツツオ（館）とヴィラ（荘）が別物であることに気づいたり、と奇跡のような発見が多かった。安野さんは「NHKの番組でやってもこうはうまくいくまいよ」となんども言ったことである。旅の途中で食べた伊勢海老のカルパッチョ、海苔のフリット、ほろ苦いアンタレッラのアンチョビペースタ、レス・トラン手作りのワインの味も思い出す。

気づいたことが、アントニオとベルナルドオの友情は『青年』に引き寄せられ、考古学者夫人サンタは『青年』の坂井夫人にそっくり。鵬外は希代の名作家ではあるが、自分の想像力だけでフィクションを作ることは苦手だったのかもしれない。なぜ、鵬外はその小説を9年、倦むことなく訳せたのか。それはドイツ時代の彼の舞姫の恋人と、小説の歌姫アヌンチャタのイメージを重ねていたからではないか。

希臘の瓶を抜け出でて文機の螺鈿の上を舞ふ女かな

鵬外は再びヨーロッパを足で踏むことが叶わないと知っていたのだろう。そして愛しのエリスを夜の翻訳の仄暗い光の向こうに見た。私もイタリアの青い空、代赭色の建物の向こうに安野さんの声や仕草を思い出す。  
(もの・まゆみ)

アート写真：選んだ写真・記事について、記事の概要や気付いたこと・感じたこと

このアート写真の、主体の全体を写しているのとは違って、主体の切り取った、一部分を写しているというところがあるかと思いました。さらに、主体で画面をほぼ埋めているので、その方に水があることになって、写真が映えているとは思いました。

### ◆報道写真とアート写真との違いはどのようなところだと考えるか◆

報道写真では多くの情報があってそのものの全体を写真1枚ですべて相手に見てわかるようにするための写真だけれど、アート写真は、少ない情報を相手にいかに美しく、みかかがあるように見せるための写真だと思っています。